

1

「農業」を活かし 農村の営みを守る

1. 農業を高める
 - ① ゆうきげんき正直農業の促進と価値をPR
 - ② 農業に取り組む人を増やす
 - ③ 農産物を売る方法の整理
2. 地産地消を進め
消費を促進する
 - ① 地元の野菜を活かした飲食店を増やす
 - ② 町内で野菜を買えるようにする
 - ③ 地元農林産物を活かしたお土産や食メニューの開発
3. 食の安全を
高める
 - ① 安心安全な食と人との交流が楽しめる仕掛けを行う
 - ② 健康志向の食を打ちだし、ヘルスツーリズムを推進する
 - ③ すべての人が安心して食べられる環境づくり

2

環境を守り 感動につなげる

1. 環境を守る
 - ① セイタカアワダチソウ・オウキンケイギクの駆除活動
 - ② 食Uターン事業を始めとする環境活動の発展
 - ③ 町内景観美化活動の実施
 - ④ 自然資源(川、山、滝など)の保全
2. 環境で
感動をつくる
 - ① ホタルや星空を商品化し、都市部へPRを実施
 - ② サイクリスト向けメニューの開発
 - ③ 雨も雪も感動に変える

3

地域の元気を 作り出す

1. 来たくなる
地域を目指す
 - ① 来訪者に快適な環境を整える
 - ② 旅行のワンストップ窓口をつくる
 - ③ 子連れ・高齢者・障害者・外国人のお出かけを支援する。
2. 住みたくなる
地域を目指す
 - ① 町内で働き楽しく生活できる環境をつくる
 - ② 元気で仲の良い集落をつくる
 - ③ 移住しやすい環境を整備し、町内のプレイヤーを増やす
3. 財産を活かし
チャンスを
つくる
 - ① 山の幸を提供できる体制づくりを行う
 - ② 多様なPRを実施する
 - ③ 能文化や神社、祭を観光資源として磨き上げ商品化する
 - ④ 農村体験の充実
 - ⑤ 既存施設の魅力の向上

4

町民みんなが 池田町を好きになる

- ① 誰もが池田町広報マンとなる
- ② みんなが池田町での生活を楽しむ
- ③ 役場、事業者、住民の情報共有や協力連携のつながりを強化する

1. 農業を活かし農村の営みを守る

1. 農業を高める

池田町のまちづくりと景観づくりの根幹をなすと言っても過言ではない地域循環型農業ですが、兼業、専業ともに農家が減少し、さらに高齢化も進んでいます。また、池田町で地域循環型農業が始まった当時以上に、国内での有機農産物への関心が高まっていることから、独自基準の「ゆうきげんき正直農業」の更なるPRが必要となっています。

①ゆうきげんき正直農業の促進と価値をPR

- ・町産農産物を安定して販売し続けることができるよう、ゆうきげんき正直農業の栽培方法、認定基準とオーガニック認証との違いを明確にした上でPRを図り、改めて価値づけを行います。
- ・こども園や町内学校の畑でも、ゆうきげんき正直農業を実施し、子どもたちからゆうきげんき正直農業への理解を深める取り組みを実施します。

【事業の例】

- ・役場や農業公社で、ゆうきげんき正直農業の消費者へのPRを実施する。
- ・子どもたちや子育て世帯に、ゆうきげんき正直農業を理解する授業やWSを実施する。

②農業に取り組む人を増やす

- ・家庭の農地も含めて、農地活用についてきめ細かい政策を実施し、各家庭での自給自足を推進します。
- ・農業に少しでも興味のある誰もが、農業をやってみることができる環境と勉強できる場を提供します。
- ・高齢の101匠の会会員の事務や畑作業のサポートを実施します。

【事業の例】

- ・町民向けに、農業公社や101匠の会から指導を受けられる勉強用農地の貸出を実施する。
- ・各家庭で世話をする人がいなくなった農地を、集落で活用し、畑仕事に詳しい人が他の人に教えたりする場をつくる。

③農産物を売る方法の整理

- ・こっぴい屋やこってコテいけだといった、既存の販売ルートの他、販売する方法を整理し、気軽に売れる体制、買える体制を整えます。
- ・CSA、CCPAを積極的に展開します。
- ・畑は直売所のブラッシュアップと横展開を図ります。

CSA（コミュニティサポートドアグリカルチャー）・CCPA（コミュニティコーポレートパートナーアグリカルチャー）
地域や企業が農家と協定して農業を宣する取組。

【事業の例】

- ・「こてイケ号」で野菜等の集荷も実施する。
- ・畑は直売所の実施方法について、広報を実施する。
- ・「おもしろい形の野菜選手権」を開催し、規格外野菜をなくす。

2. 地産地消を進め、消費を促進する

味や安全性ともに評価の高い池田町の農産物ですが、それらを活かした「池田町ならではのもの」「池田町の名物」と言われる加工食品がなく、来訪者のニーズに応えることができず経済の取りこぼしがある状況です。また、池田町で実施している「脳べるの改革」においては、減塩と発酵食品の導入、さらに学校給食での地産地消率 50%を目指すとされています。池田町の農産物を活かした、ならではのものを開発し、来訪者に提供するとともに、農業で稼ぐことができる状態を目指します。

①地元の野菜を活かした飲食店を増やす

- ・飲食事業者と農家及び農業公社で、農産物がスムーズに流通する仕組みを構築します。
- ・飲食や加工事業者においては、町産品を使っている旨のPRを実施します。

【事業の例】

- ・食事業者と農業者が交流する機会を作り、お互いに情報交換する機会をつくる。
- ・飲食店等で、メニューやポップで、町産品を使っていることを掲示する。

②町内で野菜を買えるようにする

- ・町産野菜を町内で買える場所と体制を整えます。 1-1-③ 「野菜を売る」に統合する
- ・

③地元農林産物を活かしたお土産や食メニューの開発

- ・必要とされるお土産ものを調査し、加工事業者や販売事業者とともにお土産物開発を実施します。
- ・みそ、納豆、つけものといった、池田町でも昔から作られている発酵食品や、伝承料理のレシピを保存し、町民や事業者に周知して味と技術の継承を行います。
- ・新しいメニューを作りたい事業者等が専門家にアドバイスを受けるときの支援を実施します。

【事業の例】

- ・お土産物ニーズ調査を実施し、町内事業者による「お土産研究会」を立ち上げる。
- ・「荒谷屋」や「白いかっぼうぎ」などの伝承料理の技がある団体と、若者や若い女性に関わることができる仕組みを作る。

3. 食の安全を高める

池田町では、近隣市町に先駆けて、ゆうきげんき正直農業によって町ぐるみの無農薬（減農薬）有機栽培に取り組み、農産物の安心安全に一定の評価を得ることができました。しかし、近年、食の安心安全への意識はさらに高まり、近隣市町でも取り組む農家が増えてきています。また、「安心安全」は栽培方法だけでなく、エンドユーザーの体質や宗教、習慣にまで多様化しています。さらに、どの自治体も「食」への取り組みを行っているため、より特徴ある取組が必要となっています。小さな町で、あらゆる施設が整っている池田町だからこそ提供できる、食に健康をからめた取り組みを実施します。

①安心安全な食と人との交流が楽しめる仕掛けを行う

- ・いけだ食の文化祭を始めとする食に関するイベントを継続して行う他、事業者や個人が実施する、季節に合った食に関するプチイベントの開催を支援します。
- ・季節にあった食のPRを継続して実施します。

【事業の例】

- ・事業者や個人が実施する食に関するプチイベントを観光協会でもPRする。
- ・「いけだごのみ」において、生産者を掘り下げた特集を実施する。

②健康志向の食を打ちだし、ヘルスツーリズムを推進する

- ・脳べるの改革メニューを飲食店で提供する取組を実施します。また、取り組みたい事業者を支援します。
- ・食事業者や宿泊事業者による、食のヘルスツーリズムに関する取組を支援します。
- ・食+α（森林セラピーや健康診断等）のヘルスツーリズムの可能性を検討します。

【事業の例】

- ・「脳べるの改革」メニューを提供している事業者を、役場や観光協会でも積極的にPRする。
- ・希望する事業者を集め、食のヘルスツーリズムに関するワークショップを行い、メニュー開発の支援を行う。

③すべての人が安心して食べられる環境づくり

- ・飲食や宿泊事業者がアレルギー対応ができるよう支援するほか、エネルギー量や糖質量の表示を行う場合の支援をします。
- ・ベジタリアンやムスリムといった嗜好や宗教への対応を検討します。
- ・加工品については、アレルギー表示を徹底します。

【事業の例】

- ・事業者を対象に、アレルギーなどの食に関する勉強会を実施する。
- ・「食ラボ」を中心に、加工品のアレルギー表示の支援を実施する。

2. 環境を守り感動につなげる

1. 環境を守る

町ぐるみで行っている環境活動は、農業と農村風景の維持になくてはならないものとなっています。町民の日々の暮らしが、観光資源となり、評価につながっています。また、先人たちが残してくれた自然も貴重な財産です。環境の取組を持続させ、後世にも自然を保全しながら活用し、来訪者にも伝える取り組みを実施します。

① セイタカアワダチソウ・オウキンケイギクの駆除活動

- ・町民によるセイタカアワダチソウやオウキンケイギク駆除活動を継続するとともに、「セイタカアワダチソウのない池田町」をPRします。

② 食Uターン事業を始めとする環境活動の発展

- ・環境Uフレンズによる食Uターン事業を継続し、イベント等を通じて食Uターンの意義をPRするとともに、会員の増や、食品資源の分別に協力する家庭を増やすことを支援します。
- ・子どものころからの環境まちづくり活動への参画を促します。

【事業の例】

- ・広報等による食品資源分別の協力呼びかけ
- ・食の文化祭等、食イベントでの環境活動のPR
- ・キッズエコポイントの新設

③ 町内景観美化活動の実施

- ・事業者、集落、各家庭みんなが、所有する建物の周辺や所有する花壇の美化を行うとともに、さらにもう一歩先の美化も行うような意識の高揚を促します。
- ・イベント等での来訪者のゴミの分別や持ち帰りを促します。
- ・飲食店や宿泊施設等でも環境活動を実施し、来訪者にも、環境のまち池田をPRする。
- ・空き家、空き地が適正に管理されるような取組を実施します。

【事業の例】

- ・河川クリーン作戦や、集落のクリーンデーへの参加の呼びかけ
- ・飲食店や宿泊施設等で、石油由来でない石鹼や洗剤を使用し、お風呂にシャンプー等を配置する。
- ・集落の花壇のコンテストや、ゴミ拾い大会を実施する。
- ・危険な空き家、景観を損ねる空き家の撤去の要請を実施する。また、空き家活用の支援を実施する。

④自然資源(川、山、滝など)の保全

- ・龍双ヶ滝、部子山、冠山といった、特色ある自然の保護に努め、PRを実施します。
- ・池田町の自然を次世代に伝える取り組みを実施します。
- ・木望の森100年プロジェクトにおいて、有効な森林活用と森林保全を実施します。

【事業の例】

- ・滝周辺の環境整備、山の登山道整備の実施。
- ・子供たちや子育て世代向けの自然体験イベントや自然環境学習の実施
- ・農村体験プログラム等を利用した、町内の子ども向けの自然体験イベントの実施

2. 環境で感動をつくる

池田町の自然や農村風景は、来訪者に感動を与えています。町民みんなで作り上げた環境や景観は観光資源として大きな役割を果たしているものの、経済効果を生み出すまでになっていません。経済効果を生み出すことは、町民の環境意識や農業への参加意識を高めるとともに、町民としての誇りを持つことにつながることから、しっかりとメニュー化し、商品とすることを推進します。

①ホテルや星空を商品化し、都市部へPRを実施

- ・ホテルや星空の鑑賞を旅行メニューとして組み込める取組を実施します。
- ・町内の子どもたちや町民のみなさんが、ホテルや星空が見える環境に誇りを持てるような取組を実施します。
- ・ホテルや星空を鑑賞しやすい環境について検討します。

【事業の例】

- ・宿泊メニューにホテルや星空鑑賞を組み込んだり、農村体験プログラムでもホテル観賞、星空観賞を取り入れる。
- ・町民の方に「ホテル通報」をしてもらい、ホテルマップを制作する。
- ・外灯計画や、景観ゾーニングを実施する。
- ・子供たちが池田町の星空に誇りを持つ取組として、日本宇宙少年団に入会する。

②サイクリスト向けメニューの開発

- ・自転車に乗りやすいまちづくりを実施し、エコな乗り物「自転車」の普及を目指します。
- ・サイクリストが楽しみやすい、周遊しやすい仕組みを検討します。
- ・サイクルツーリズムによる経済効果を高める取り組みを実施します。

【事業の例】

- ・サイクリストへのニーズ調査を実施する。
- ・サイクリスト向けの、道路や天気、観光情報の提供を行う。
- ・林道等を活用し、自転車のオフロードコースを整備する。

③雨も雪も感動に変える

- ・雨や雪などの悪天候時にしか見ることができないもの、体験できないものをまとめてPRし、悪天候時の来訪者の減少幅を縮小する取組を実施します。

【事業の例】

- ・雨の日雪の日インスタコンテストの実施。
- ・悪天候時だけの限定サービスを提供する。

3. 地域の元気を作り出す

1. 来たくなる地域を目指す

来訪者が行先を決める際、場所への期待値とともに、来訪先で困りごとなく過ごせるかどうか大きな要素となります。また、困りごとなく過ごせる場所は、地元の人にとっても快適な場所といえると思います。様々な来訪者が来てよかったと思える場所を目指します。

①来訪者に快適な環境を整える

- ・近隣市町とも協力し、近隣主要駅からの2次交通の確保と、池田町に来てからも来訪者に迷わせない施策を検討、実施します。
- ・池田町内での、マイカー以外の移動手段を検討します。
- ・公衆トイレや観光地のトイレの清潔にし、快適性向上を図ります。

【事業の例】

- ・観光サイン看板（英語・日本語併記、ピクトグラム記載）を整備する。
- ・なかま号やマイバスのバス停をたてる。
- ・国や県の補助金を利用し、トイレの改修を実施する。

②旅行のワンストップ窓口をつくる

- ・旅行業のある法人、団体を町内につくり、ワンストップでお客様の手続きができる体制を整える。

③子連れ・高齢者・障害者・外国人のお出かけを支援する

- ・お子様とのお出かけに便利な情報の提供と、受け入れ環境を整備します。
- ・高齢者や障害者の方が安心して出かけられるようなバリアフリーを意識した整備や改修と、障害のある方も楽しめる体験を検討する。
- ・来られた外国の方が、困らないようにする。

【事業の例】

- ・ 子連れの来訪者が、池田町を楽しみやすい情報（食事や外遊び、川遊び等）を提供する。
- ・ 子供用トイレ、多機能トイレの整備。
- ・ 町内で統一したピクトグラムを掲示する。
- ・ 川や木陰を楽しみ休憩できる場所の整備する。

2. 住みたくなる地域を目指す

池田町の観光事業は、単に観光客を増やし、消費額を増加させることを目的とするのではなく、観光を通して、みんなで住みよい池田町にしていくことを大きな目的としています。来訪した方が池田町の人が元気だと感じられるような取り組み、池田町に住む人が池田町に住み、働きやすい取り組みを行います。

①町内で働き楽しく生活できる環境をつくる

- ・ 町民のみなさんがサービス業で働きやすい環境を検討します。
- ・ 起業支援や営業支援等を継続するとともに、スモールビジネスやまちづくり活動を行う人を支援します。

【事業の例】

- ・ 土日が休みではないサービス業で働く子育て世代や、介護の必要な家族がある人が働きやすい保育や教育、介護サービスの検討を行う。
- ・ ちっちゃな幸せ実現事業や、商工関係の各種支援事業を継続するほか、商品やイベントのPRの支援も行う。

②元気で仲の良い集落をつくる

- ・ 集落活性化事業を継続し、集落や地区による法人への事業支援を継続する。
- ・ 集落で体験や民泊などの収益事業を実施することを支援する。

【事業の例】

- ・ 集落ごとに、空いた畑で体験農園を作り、農村体験事業を実施する。
- ・ 子育て世代や、会社勤めで農地の管理が十分にできない人を地域でサポートする仕組みを作る。
- ・ 集落で空き家の管理を行い、民泊などで集落の収益をつくることを支援する。

③移住しやすい環境を整備し、町内のプレイヤーを増やす

- ・ 暮L A S S E L 事業による空き家や仕事の情報提供を継続する。
- ・ 移住定住支援事業を継続する。

3. 財産を活かしチャンスをつくる

池田町には、先人たちが残してくれた豊かな自然からもたらされる山の幸、川の幸があり、これらは、池田町の伝承料理に欠かせないものです。また、歴史深い能文化やたくさんの村社があり、池田町の誇りの創出と昔ながらの農村の営みの風景に欠かせないものとなっています。こうした先人からの財産は、現代の生活様式では守ることが難しくなっているからこそ、観光によって継続させる取り組みが必要です。

また、今後計画されている交通網の整備は、池田町の観光だけでなく、多方面に影響を与えることが予測されていますが、これをチャンスと捉え、既存観光施設の魅力向上にも取り組んでいきます。

①山の幸を提供できる体制づくりを行う

- ・山菜やキノコなどの採り方や採れる場所、処理の仕方を町内で継承する取組を実施します。
- ・山菜等やキノコ等の流通方法を検討します。
- ・有害鳥獣駆除を見直し、ジビエを流通させる体制を検討します。

【事業の例】

- ・山の名人バンク（仮）を設置し、名人と町民の弟子のマッチングを行い、採り方と採れる場所の継承を行う。
- ・こっぱい屋やこってコテだけでなく、WEB等での販売を検討する。
- ・有害鳥獣駆除の仕組みや、補助のあり方を見直すとともに、処理施設建設を検討する。

②多様なPRを実施する

- ・各種メディアやエージェントへの広告出稿や営業活動を継続します。メディアやエージェントは、ターゲット定め、戦略を持って選定します。また、個人や事業者がPRを行う際のアドバイス事業も継続して実施していきます。
- ・福井県や近隣市町、企業等と連携を図りながら、物産展や各種キャンペーン等を活用して池田町の知名度を上げるためのプロモーションを実施します。
- ・来訪者がSNS等で発信しやすい取組を実施します。また、来訪者の口コミによる情報発信を促します。

【事業の例】

- ・飲食店等で、SNS投稿を促すポップやキャンペーンを実施する。
- ・シニア層限定の紹介制度をつくる。

③能文化や神社、祭を観光資源として磨き上げ商品化する

- ・「水海の田楽能舞」をはじめとする能文化の継承のため、観光コンテンツとして磨き上げ、収益を能文化の継承に活用する仕組みをつくります。
- ・集落に残る祭を整理し、観光によって継承する仕組みを検討します。加えて、池田追分についても、継承の仕組みを検討します。

【事業の例】

- ・能衣装の着付け体験の実施。
- ・保存会等から能文化ガイドを育成し、能の観光コンテンツ化を図る。
- ・村の祭り（おみこしやどんど焼きなど）に外部の人も参加できる仕組み作り。

④農村体験の充実

- ・農村体験プログラムを継続し、教育の場でも活用できるような体制とブラッシュアップを行います。
- ・伝統行事の体験プログラム化によって、伝統行事の継承や復活を行います。
- ・体験プログラムを地域の子どもたちに実施してもらい、誇りの創造を実施します。

【事業の例】

- ・体験プログラムの請負を旅行業のある法人で実施し、商品化を行う。
- ・体験プログラムに町民価格を設定し、町外からの参加者の感動を一緒に味わってもらう。

⑤既存施設の魅力の向上

- ・冠荘やそば道場、かずら橋などの志津原、土合皿尾地区の魅力向上を行い、冠山トンネル開通後の福井県の玄関口として価値を高めるとともに、チャレンジしたい人が気軽に販売等を行える場を作ります。また、町民も気軽に集い、活用できる場とします。
- ・ツリーピクニックアドベンチャーいけだをはじめとする木育、木活施設、及び農村 de 合宿キャンプセンターの教育的要素を高め、学びの場としての価値を高めます。

4. 町民みんなが池田町を好きになる

①誰もが池田町広報マンとなる

- ・子供のころから、町民一人ひとりが池田町の良さを話せる取組を行うとともに、役場やまちUPの職員はもちろん、だれもが観光案内ができるようになる取り組みを行います。

【事業の例】

- ・地域の宝さがしとして「フェノロジーカレンダー作り」を行う。
- ・学校行事や公民館行事で、町民が池田町を楽しめるものを行う。

②みんなが池田町での生活を楽しむ

- ・仕事の都合や体の不調などで、池田町での地域づくり活動になかなか参加できない人もいますが、そういう人でも、池田町に住んでいるということを楽しんでもらえる意識作りを行っていきます。

【事業の例】

- ・高齢の方や体調がすぐれない方へ、集落や地域の保健推進委員、老人クラブなどで見守りを行う。
- ・いろんな働き方や家庭があることを考慮して、集落の活動を実施する。
- ・池田町内での世代や組織を超えた友達づくりをする。

③役場、事業者、住民の情報共有や協力連携のつながりを強化する

- ・役場からの情報公開を適切に行い、住民からも事業者からも情報提供や意見をもらえるようにします。意見や情報は、SNS等も活用し、できるだけ気軽な形で受け取れるようにします。
- ・観光事業者同士の横のつながりを強化するため、観光協会において研修事業を実施します。